

アレルギー疾患 都道府県拠点病院モデル事業

熊本大学病院



①アレルギー疾患患者や家族に対する相談対応

医療従事者・教育関係者を対象とした メール相談システムを構築した

ホームページを開設
「くまもとアレルギー相談室」
<https://www.kumallergy.jp/>

The infographic illustrates the website's features and goals. At the top, it states: 「保育や教育の場、医療の現場での疑問を気軽に相談してください」 (Please consult easily on questions in childcare/education and medical settings). Below this, it says: 「専門医が分かりやすくお答えするウェブサイト、できました！」 (A website where specialists answer clearly is now available!).

A central screenshot of the website shows the header with the title 「アレルギー相談室」 (Allergy Consultation Room) and navigation tabs for 「アレルギー」 (Allergy), 「アレルギー検査」 (Allergy Testing), 「アレルギー治療」 (Allergy Treatment), 「アレルギー予防」 (Allergy Prevention), and 「アレルギー相談」 (Allergy Consultation). The main content area features a large question: 「これってアレルギー?? アレルギーって、なに？」 (Is this allergy?? What is allergy?).

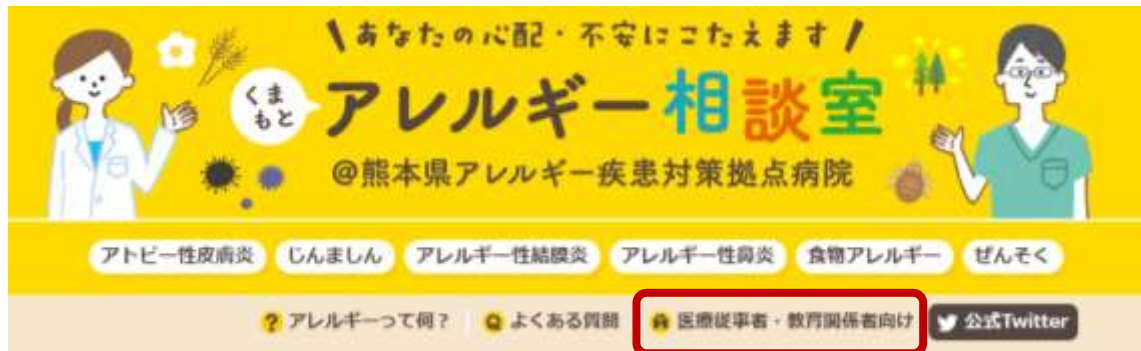
Surrounding the website screenshot are several callouts:

- POINT** (top left): 「検索機能搭載しています」 (We have a search function).
- POINT** (bottom left): 「誰でも簡単に検索できる」 (Anyone can search easily).
- POINT** (bottom right): 「最新の専門医の情報を掲載しています」 (We publish the latest information from specialists).
- POINT** (right side): 「お問い合わせフォームはコチラをクリック!」 (Click here for the inquiry form!).
- POINT** (right side): 「ぜひご利用ください!」 (Please use it!).

At the bottom, it lists the participating hospitals: 「熊本県アレルギー疾患対策拠点病院は、熊本大学病院・国立熊本医療センター・熊本地域医療センターが連携して担っています。」 (The Kumamoto Allergy Disease Countermeasure Hub Hospital is supported by Kumamoto University Hospital, National Kumamoto Medical Center, and Kumamoto Regional Medical Center).

At the bottom right, there is a QR code and the text: 「アレルギーのことで困ったことがあれば、お気軽にご相談ください。」 (If you have any questions about allergies, please feel free to consult.) and the URL <https://www.kumallergy.jp/>.

①アレルギー疾患患者や家族に対する相談対応



医療従事者・教育関係者向け

こちらのページでは、医療関係者（医師、薬剤師、看護師、保健師等）および教育関係者（学校教諭、幼稚園教諭、保育士、栄養士等）を対象に、アレルギー対策関連のご質問を募りQ&Aにまとめた情報を提供致します。掲載する情報は、一般の方に対する情報提供を目的としたものではないことをご了承ください。

※頂いたご質問は精選の上、回答させていただきます。
頂いたご質問全てを掲載出来ない可能性がありますことご了承下さい。

Q Q&A

アレルギーに関して頂いたご質問をQ&A形式でまとめています。

準備中

お問い合わせ

アレルギーに関するご相談等ございましたらこちらよりお気軽にお問い合わせください。頂いたご質問はQ&Aにてご回答申し上げます。

CLICK

Q&A

医療従事者・教育関係者の方向けQ&A

Q 0歳児のアレルギー検査はできるのでしょうか。（保健師 20代）
我が子が全身に蕁麻疹が出て、救急外来を受診し、アナフィラキシーと言われたが、まだ小さいからアレルギー検査はできない、様子を見ましようと言われたそうです。また、熊本ではアレルギー検査や試験をあまりしないとも聞きました。地域や病院により、診断の方法が違うのでしょうか。

A お母さまにご不安があれば、かかりつけの小児科受診をお勧めください。必要に応じて検査の要否や専門医への受診を検討されます。救急外来で行うのは一時的な処置までです。食物アレルギーの診断は問診が重要です。蕁麻疹だけが症状であれば食物以外が原因となる


①メールにて相談受付
(医療・教育関係者のみを対象としています)

②web上で回答
(どなたでも閲覧できます)

②地域の医師に対するアレルギー疾患研修会の実施

＜熊本アレルギー症例検討会＞

- 呼吸器内科、皮膚科、耳鼻科、眼科、小児科の当番制で主催
- テーマとして日常診療にて遭遇する「よくある症例」を取り上げる
- 3か月ごとに開催
- web開催とし、県内全域からの参加を可能とした。
- 会員登録数：217名

日時	テーマ	内容	参加数
第1回	小児の食物アレルギー	1. ナッツアレルギー 2. 乳児の鶏卵アレルギー	48名
第2回	小麦アレルギー	1. 食物依存性運動誘発アナフィラキシー 2. 加水分解コムギによる小麦アレルギー	85名
第3回	他科との連携	「他科の先生に聞きたい、アレルギーのアレコレ」	58名
			
第6回	特異的IgEの使い方	皮膚科における特異的IgEの使い方	87名

②地域の医師に対するアレルギー疾患研修会の実施

- 開催案内はメールにてお知らせ
 - ・ 質問もメールにて受け付けます。
- 「本会としての見解」として 毎回まとめスライドを作成し、参加できなかった先生にもメールにて資料を配布

第1回 熊本アレルギー症例検討会のご案内

2020年7月30日(木) 19時～オンラインで開催

平素よりアレルギー疾患の診療とアレルギー疾患の基礎知識の向上へのご関心、ご協力をお願い申し上げます。

ご質問のとおり、日本全国の2人に1人が何らかのアレルギー疾患を患っていると言われております。たとえば、ダニアレルギーは増進、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎を併発し、食物アレルギーの中には食物が原因のアレルギーを合併する症例がみられます。さらにアトピー性皮膚炎の乳児のほとんどが腸管への感作を有するなど、互にもアレルギー疾患に関わる関係は、非常に複雑な関係が不可分とされており、

ところで、2014年に「アレルギー疾患対策基本法」が公布され、「アレルギー疾患を有する者が、その発症する原因がわからず苦しむ科学的知見に基づいた適切なアレルギー疾患診療を受けることができ、国がアレルギー疾患に関し、適切な情報を入手することができる」という基本理念のもと、医療体制の整備が図られています。

熊本県では、熊本大学病院が熊本県アレルギー疾患総合センターに指定され、熊本県医師会とともに、熊本県におかれたアレルギー疾患の診療体制の構築に取り組んでいるところです。

この度、熊本県アレルギー疾患診療連携協議会の活動の一環として、アレルギー疾患の向上のためにwebによる症例検討会を開催しました。今回のテーマは下記の通りです。

- 症例1: 1歳 ケツアザアレルギー - 児童発達支援センター
 - 症例2: 4か月 豚アレルギー (アトピー性皮膚炎合併) - 小児科アレルギー診療センター
- ＜症例提示 (各 15分) 後、各症例についてレクチャーと重要ポイントの時間を設けております＞

貴先生が印象的であり、重要な、ちょっと気になる症例、科別に相談したいというお声の御声のサーブスなどを取り上げて、様々な観点で検討できる場を提供しております。熊本ならではの「顔の見える関係性」を生かして、各科の先生方と連携させていただく機会となることを期待しております。

Webでするので、遠方の先生も、子育て中の医師の方も、専業主婦、またはスマートフォンからも参加可能です。

参加の詳細はこちらから <https://www.kumamoto-u.ac.jp/~allergy/> ご確認ください。
のぞいていただくだけでも大歓迎です。お気軽にご参加をお待ちしております。

熊本県アレルギー疾患診療連携協議会 会長 中村由樹
(熊本大学大学院生命科学研究部 小児科アレルギー学 教授)

第6回 熊本アレルギー症例検討会 「特異的IgE抗体検査 いつ、だれに、なにをしらべる?～皮膚科編～」

＜症例1＞ 豚肉アレルギー (遅発型アナフィラキシー)

- 牛肉摂取後4時間(豚骨スープは1.5時間)後にアナフィラキシー
- 原因: マダニ咬傷
 - 唾液中のα-Gal含有タンパク質に対するIgE抗体産生
 - α-galを含む肉類の摂取にてアレルギー症状を起こす。
 - ✓ 鶏肉は食べられる(α-Galを含まないため)。
 - ✓ セツキシマブ(抗がん剤)、子持ちガレイにもアナフィラキシーを起こす可能性

＜症例2＞ 豚肉アレルギー

- 蕁麻疹にて治療するも通常の抗アレルギー薬に治療反応が乏しい。夕食後のタイミングに皮疹が出現する。
- 既往歴: 2年前から頭部・体幹に掻破性湿疹ありステロイド外用治療中。2ヶ月前に喘息発作あり、PSL短期間投与。
- 非特異的IgE 528 IU/ml
MAST36アレルギー特異的IgE抗体検査
Class3 コナヒョウヒダニ、スギ、豚肉
豚肉特異的IgE-Immuno CAP® class 3
- 診断: Pork-cat syndrome
ネコ皮膚、毛、糞尿中の血清アルブミン (Fel d 2) に経気道感作
→ 交叉反応性を有するブタ血清アルブミン (Sus s1) にアレルギー反応を起こす。
- 食物除去で症状軽快した後、少量ずつ摂取開始している。

Type of meat allergy	History	SPT	RAE	Challenge
Primary meat hypersensitivity to beef often with preceding sensitivity to cow's milk	Reaction to pork within 1 hr in association with additional reactions to beef steaks, meat pies, processed ham/bacon	Beef, pork, lamb, mutton, wild boar, piglet or 24 hr in 2 domains	Beef, pork, lamb, mutton, wild boar, piglet, mutton, chicken, rabbit, pig, mutton, sheep, mutton, lamb	Oral and nasal. Double-blind challenge with meat or extracts in some cases where diagnosis remains unclear
Oral food allergy without clear or no allergic symptoms	Onset within 2-4 hr after eating beef	Beef, pork, lamb, mutton, wild boar, piglet or 24 hr in 2 domains	Beef, pork, lamb, mutton, wild boar, piglet, mutton, chicken, rabbit, pig, mutton, sheep, mutton, lamb	Challenge may have been conducted in experimental conditions. This may be necessary in some cases where diagnosis remains unclear. Induction may need to be conducted in a laboratory setting. Primary meat reactions

Fel d 1: major allergen → いわゆる「ネコアレルギー」喘息とも関連
 Fel d 2: minor → 他血清アルブミンと交叉反応性のリスク

＜特異的IgE抗体検査の方法は？＞
 ①MAST? ②View 36 ③ Immuno CAP どれがいい?
 ● MAST®とView 36®は一度に多項目のアレルゲンが測定可能。
 長所: スクリーニングに利用できる。
 成人の特発性蕁麻疹では陽性になることが少ない。
 → 全て陰性だとFAの不安を払拭しやすい(皮膚科医より)
 短所: IgE抗体の検出力は③Immuno CAP®に劣る。
 本来目的としていないアレルゲンが陽性を示すことがある。
 → 未摂取or食べられた食品にも擬陽性を示した場合、不要除去食が開始されることも…。

● 小児のMAST/Viewにはご配慮を ●

- 特異的IgE抗体検査は擬陽性も多いです。
- 小児では未摂取の食品も多いため、IgE陽性だと、自己判断や保護者の不安による除去食が開始される可能性が危惧されます。
- 除去食の解除にあたり、「食べられる」ことを証明できる臨床検査はいまのところありません。
- 「検査陽性」に対するフォローをお願いします。

③アレルギー疾患に対する情報提供

1. 熊本アレルギー疾患連絡協議会メーリングリストの作成

- 会員数 18名（その他管理者1名、非登録者1名）
- 症例検討会、会議等のお知らせに利用

2. 公式twitter

- 災害時の通信手段としてメーリングリストとリンクし、情報収集・周知に利用予定



3. 研修会への講師派遣

- 食物アレルギー対応についての教育関係者からの要望が多い

テーマ	内容	参加数
小児の食物アレルギー	阿蘇市 食物アレルギー児の給食対応	24名
小児の食物アレルギー	県保育協議会主催 研修会 食物アレルギー	166名
小児の食物アレルギー	熊本市内 保育園合同研修 食物アレルギー児対応	82名
小児の食物アレルギー	県栄養士会主催 研修会	31名

④アレルギー疾患に係る診断等支援

1. 地方中核病院へのアレルギー診療支援

- iPadを配布し、webにて拠点（連携）病院の専門医が、地方中核病院に勤務する医師の診療を支援している。
 - ✓ 診療相談
 - ✓ 地域の医師を通じて、受診した外来患者と専門医を結ぶことも可能となった。

診療科	支援中の病院	相談数	相談内容
呼吸器内科	阿蘇医療センター 天草中央総合病院 人吉医療センター 水俣市立総合医療センター 公立玉名中央病院 熊本地域医療センター	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ ACOコントロールについて使用薬剤や形態等の相談 ・ 難治性喘息に対する治療方針
皮膚科	公立玉名中央病院 熊本総合病院 大牟田天領病院	-	
耳鼻科	熊本総合病院 熊本労災病院	-	
眼科	水俣市立総合医療センター 人吉医療センター	-	
小児科	水俣総合医療センター 天草地域医療センター	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ アトピー性皮膚炎の治療 ・ 経口負荷試験の相談（負荷量、適応、検査時期） ・ 特異的IgEが利用できない食物抗原の診断について

2. 女性医師を対象としたアレルギー診療の啓発 ＜食物アレルギー入門講座＞

- 少人数でのディスカッション形式による症例を通じた勉強会(全3回)
- 食物アレルギー診療ガイドライン（日本小児アレルギー学会）を配布、教材として利用。
- webを用い、自宅からの参加も可能とした。
 - ✓ 診断（1/20予定）、検査（2月）、フォロー（3月）
 - ✓ 実臨床での疑問点も収集
 - ✓ 8名（小児科、皮膚科）が応募

